

## 国臨協東海北陸支部活動における外部精度管理前チェック表活用への試み

◎仁科 正樹<sup>1)</sup>、前越 大<sup>2)</sup>、中島 美由紀<sup>1)</sup>、大森 健彦<sup>3)</sup>、矢田 啓二<sup>2)</sup>、柘植 仁<sup>4)</sup>  
独立行政法人 国立病院機構 豊橋医療センター<sup>1)</sup>、独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター<sup>2)</sup>、独立行政法人国立病院機構 長良医療センター<sup>3)</sup>、独立行政法人国立病院機構 東名古屋病院<sup>4)</sup>

## 【はじめに】

独立行政法人国立病院機構東海北陸グループは20施設で、独立行政法人国立病院機構並びに国立研究開発法人国立高度専門医療研究センター、国立ハンセン病療養所等が含まれている。国立病院臨床検査技師協会（以下、国臨協）東海北陸支部は、広範な臨床検査及び研究分野に従事する臨床検査技師で組織されている職能団体であり、様々な活動を通して検査技師のスキルアップ、施設間の連携を維持している。中でも、外部精度管理調査は精度の確保、質の維持を目的とし、多くの施設が参加し評価を受けている。SOPを遵守し日々精度管理業務に努めているが、各施設の分析器は設置環境や稼働年数も異なり、日本医師会臨床検査精度管理調査報告でC・D評価を受け原因分析に困惑する施設は少なくない。

今回我々は、C・D評価項目の正確な原因分析とグループ内C・D評価削減を目的とし、日本医師会臨床検査精度管理調査前チェック表（以下、チェック表）を国臨協東海北陸支部、ルーチンアドバイザー委員会が中心となって作成し、チェック表の有効性について検討したので報告する。

## 【対象・方法】

東海北陸グループ内20施設を対象に、7月中旬技師長協議会協力のもとメール配信した。入力期間は8月から9月日本医師会臨床検査精度管理調査報告終了までとし、10月に回収した。チェック表は、機器点検チェック表とコントロールチェック表で構成し、機器、試薬の状態を詳細にチェックできるようにした。

## 【結果】

2018年度グループ内評価は、生化学4項目、凝固4項目、免疫2項目がC評価であった。各部門のルーチンアドバイザー委員がチェック表の記載内容を活用し、C評価項目の分析を詳細に行った。分析結果の解説は東海北陸支部ホームページに掲載した。

## 【結語】

外部精度管理調査結果は、自施設の管理状況を客観的に把握でき、機器・試薬に関しても見直す良い機会となる。しかし報告書を受け取るのは数か月後であり、C・D評価を受けた時点での振り返りは困難である。チェック表は外部精度管理調査時点の機器管理、試薬、コントロールデータが容易に確認でき原因分析に有効である。今後、更に国臨協東海北陸支部活動を活発にし、精度の確保と質の向上、外部精度管理C・D評価削減に努めたい。  
独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター  
0532-62-0301（2234）